

近代詩曲の会の沿革

本会は、筑波研究学園都市、即ちグレーターつくばの建設最初期の1970年代に、音楽のAI的研究を目的とする筑波大学 PSYCHE プロジェクトと連携しつつ、プロ音楽家及びアマチュアの内でも最もハイブラウでハイレベルな者のグループとして旧桜村の公民館を拠点として結成されたもので、40有余年の歴史を有する。いわゆる新住民¹による文化芸術団体としてはつくば市でも最も古いものの一つであり、上記プロジェクトに関わる会員の研鑽研究と共に、グレーターつくばを中心とする地域の音楽芸術文化の交流・発展・発信を行って来た。²

本会の半世紀に亙る歴史を示す文書、特に紙媒体のものは既に概ね散逸しているが、つくば市およびその周辺地域である「グレーターつくば」には未だ多く残って居ると考えられる。以下に比較的最近の活動例を中心に示すこととする。

- 合唱活動が活発で演奏水準が高いつくば市でも、最も名声を誇った混声合唱団銀の笛を結成し、10年間に亙りノバホールで定期演奏会を主宰し成功させた。
- 現在も活動中の有力な男声合唱団 KOΣMOΣ にも本会が創設から関り、十年余り練習会場の手当てからユニフォームの制作・管理に至るまでのマネジメントを行って来た。
- つくば音楽団体交流協議会の創設・会則起草にも関与した創立会員であり、それが開催するムジカフェスタ・ディつくば³には1994年の第1回から本年の第25回まで連続出演もして来た。
- 今年第7回を行ったソロフェスタも、その開催主体であり、準備的にいわば第0回として行われたソロフェスタの前身も本会の主催だった。

¹ その後いわゆる旧住民も大いに参加貢献するようになった。

² 多年桜村文化協会（その後つくば市文化協会桜支部となる。）に所属していたが、現在はつくば市文化協会洋芸能部門に所属している。（平成15、18年度つくば市文化協会加入団体一覧（2008、2011）等参照）

³ 筑波大学が1976年から、地域の文化の発展と、市民との交流のために、公費と職員を使って50回に亙って大学会館ホールで開催して居た「学園都市音楽会」を発展的に継承したものである。近代詩曲の会は発足時から毎年何らかの形で参加貢献していた。

- ソロフェスタ以外にも、随時演奏会を開催し、又他団体が主催する音楽会その他のイベントに出演している。
- 上記ソロフェスタの主催団体である他、本平成 30 年度つくば市文化祭第 4 1 回ノバホール音楽会実行委員会を団体として引き受けて居るつくばソロ演奏者連絡会も本会の手で発足したもので、本会が支援している。
- なお上記ノバホール音楽会にも第 1 回より連続出場して居るし、当然役員も頻繁に努めて来た。
- PSYCHE プロジェクトに連携して筑波大学・市民交流コンサートを 3 回に亘って開催した。
- 音楽芸術的には、本会は、独唱や合唱はもとより声楽と器楽取り混ぜたアンサンブルを継続的に追求して来ており、様々な独自の演奏活動・コンサート・演奏の理論と AI 的に見た実際の研究活動（PSYCHE プロジェクトに連携協力し、AI による演奏も発表。）を行って来た。

このように本会は、半世紀に垂んとする年月に亘って、独自の演奏活動・音楽芸術研究活動・啓蒙普及活動と併せて、合唱団体やソロ団体等を通じて、つくば市内外——グレーターつくば——の多くの芸術音楽を愛好する市民を組織し、或いはまた世話して、つくば市の文化芸術的発展と市民の啓蒙と交流に貢献して来たものである。